

【報告】

第6回 子どもの禁煙研究会（2015年3月開催）

【研究会】

- ◆開催日：2015年（平成27年）3月27日（土）
- ◆場 所：沖縄県薬剤師会館（沖縄県南風原町）
- ◆主 催：日本禁煙科学会 子どもの禁煙研究会
- ◆後 援：沖縄県医師会、沖縄県薬剤師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県小児科医会、沖縄県小児保健協会、
 沖縄県健康づくり財団、沖縄県看護協会、沖縄県保健医療部、沖縄県教育委員会
- ◆研究会の趣旨：子どもに対する禁煙活動に焦点をあて、沖縄県の禁煙活動の推進を図る。
- ◆参加対象：職種を問わず、子どもの禁煙支援・喫煙防止教育に携わる全ての方

【主たるプログラム】

- ◇第1部 喫煙防止教育
 - 座長 沖縄県薬剤師会 笠原大吾
 - ・喫煙防止教育の事例
 - 徳山クリニック 禁煙外来 永吉奈央子
 - ・ホームルーム活動を中心とした保健指導
 - ～喫煙防止教育を通して～
 - 嘉手納高校 養護教諭 長濱直子
- ◇ミニコンサート 弦楽三重奏 琉球交響楽団
- ◇第2部 未成年禁煙支援
 - 座長 仲本病院 玉城 仁
 - ・キーレクチャー 子どもへの禁煙支援
 - 日本禁煙科学会 高橋裕子
 - ・事例検討 未成年禁煙支援事例
 - ゆいクリニック 島袋 史
- ◇第3部 加型ディスカッション
 - 司会 オリブ山病院 譜久山民子
 - ・テーマ：中学生への禁煙支援
 1. 「子供が毎日喫煙しています。お母さんは毎日なんて声かけたらいいんでしょう」
 2. 「子供が禁煙始めました。お母さんは毎日なんて声かけたらいいんでしょう」

◇質疑応答



御礼と開催報告

徳山クリニック・子どもの禁煙研究会事務局
永吉奈央子

3月7日、第6回子どもの禁煙研究会、第176回全国禁煙アドバイザー育成講習会にご多忙の中、子どもの禁煙研究会37名、講習会40名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

今回初めて同日開催という特別企画で、事務局として不行き届きな面も多々ありましたが、どちらも内容が大変充実しており、いつもの子どもの禁煙研究会だけでは得られない禁煙支援スキルを一気に身に着けることができ、大変良かったと思います。

何度参加しても禁煙アドバイザー育成講習会の質の高さには感服します。4A+Aのワークは楽しく学べて、終わった後にも記憶に残り、使えるスキルとして皆さん身についたと思います。2000円でも安いと思いますのに、子どもの禁煙研究会参加者の皆さんは無料というご配慮をいただき、心より感謝いたします。

子どもの禁煙研究会の詳細については、禁煙科学会ホームページから抄録集をご覧いただけるとと思いますのでご参照ください。ここでは子どもの禁煙研究会の概要をご報告いたします。

第1部 喫煙防止教育

小学校高学年向け授業の事例（永吉）とホームルームを利用した防煙活動報告（高校養護教諭）

ミニコンサート

琉球交響楽団コンサートマスターのバイオリンとピアノ演奏で4曲ご披露いただきました。やわらかくあたたかい音に皆さん癒され、豊かな気持ちになられたことと思います。琉響理事長でもある安次嶺馨先生のおかげで毎回すばらしい音楽に触れることに感謝いたします。

第2部 禁煙治療

キーレクチャー（高橋先生）と未成年妊婦の支援事例（産婦人科医師）

第3部 参加型ディスカッション

テーマ「中学生の子供が毎日喫煙しています。お母さんは毎日なんて声かけたらいいのでしょうか？」

第3部の参加型ディスカッションの一部紹介します。活発なディスカッションをいただき、ありがとうございました。

- ・タバコをやめたいか確認をする。
- ・依存症のためにタバコがやめられないのを話して、禁煙外来へつなぐ。
- ・中学生で反抗期かもしれない。普段からの会話とコミュニケーションを大切にする。
- ・体に悪いことを伝えながら、会話をしていく。寄り添っていく。
- ・母親が吸っている場合と吸っていない場合と2つに状況が分かれる。
- ・タバコのおいがるがどうしたの？。あなたのことが失敗なので、という意思表示をする。
- ・母親がタバコの吸い殻を発見したがタバコのタの字もいわずに、健康について大丈夫かと言われたのがかえって心に響き禁煙したという方がいる。変化球もよいかも。
- ・直接、問い詰めるのはよくない。タバコの害は学校でも話をしている。
- ・時間をかけて話し合うことも大切。親の思いも伝えることも大切。
- ・叱ることは火に油を注ぐようなもの。タバコを吸うことをどう思っているかという問いかけがいいかもしれない。
- ・学校の先生や医療機関といった第三者から、禁煙の必要性を説明してもらうことも大切。

最後に、高橋先生からコメントがありました。

1. 遠慮せずに、有害性をしっかりと伝える。
2. その子供ができることを言う。依存性があるかどうか。タバコを1週間禁煙できるか→できなければ依存症と考えてよい。
3. 依存性になっていれば、薬物治療を説明する。

今回は7月11日（土）予定で、参加型ディスカッションのテーマは「子どもが禁煙を始めました。お母さんは毎日なんて声かけたらいいのでしょうか？」です。次回も活発なご討議をよろしくおねがいいたします。